Vol.37

# 映画で学ぶ環境問題

MARY
MARTHA
ライフ

**ヒラリー・スワンク ライフ**
原題：Mary and Martha
監　督：フィリップ・ノイス
製　作：ヒラリー・ビーバン・ジョーンズ
リサ・ブルース
ジュヌビエーブ・ホフマイア
出演者：ヒラリー・スワンク
ブランダ・ブレシン
ジェームズ・ウッズ
上　映：93 分
公　開：2013 年
製作国：イギリス・アメリカ合作

今回ご紹介するのは、アメリカ国内ではテレビドラマとして放映された作品で、原題は「メアリーとマーサ」ですが、日本でＤＶＤ販売されており、アカデミー賞女優のヒラリー・スワンクが主演をつとめることから「ヒラリー・スワンクライフ」と名付けられました。

ヒラリー演じるメアリーは、経営者の夫とともに裕福な生活をしています。立派な家に住み、高級車に乗り、ママ友たちとのヨガやお茶といった優雅な時間を過ごすなど、誰から見ても満たされた人生を歩んでいます。

ところがある日、息子が学校でいじめにあっていることを知り、環境を変えることで問題から抜け出そうとします。結局、夫にも息子本人にも相談せず、かなり強引に学校を辞めさせ、自分と息子の２人だけでアフリカへの長期旅行に向かいます。

渡航先のモザンビークでは、ガイドを雇い別荘で相変わらず優雅に過ごすメアリーと息子のジョージ。豊かな自然によって、すっかり元気を取り戻したジョージですが、川下りに出た宿泊先でほんの少し空いた蚊帳（カヤ）のほころびから蚊にさされます。

平和な人生だったゆえに世間知らずなメアリーは、徐々に体調を崩すジョージを前にしても、単なる風邪か体調不良と思い込みます。まして医療施設まで何時間もかかる地域のため、病院にたどりつくまでにジョージは瀕死の状況に。結局、一人息子のジョージは手遅れにより、病院で命を落としてしまいます。

冒頭の優雅な日常とは、かけ離れた状況に追い込まれるメアリー。息子を亡くして初めて、アフリカでのマラリア感染の実態を知ることになります。

実は旅行前に、かかりつけ医から予防接種を薦められていたのに「冬だから大丈夫」と軽くいなしていたこと、そして体調を崩してから急いで病院にかけつけていれば助かっていたかもしれないのにも関わらず、ジョージの葬儀でも、その後の生活でも、（一人息子を亡くした）夫に対して、自分勝手な行動を謝罪することはありません。

そんなワガママで思い上がった彼女が出会ったのは、同じように息子を亡くしたイギリス人の母親マーサでした。マーサの息子も、モザンビークでボランティア活動中にマラリアにかかって死亡したのでした。

マーサと過ごすことで、多くの気づきを得るメアリーは、セレブなママ仲間とは距離をおき、マーサとともにマラリア撲滅活動家として行動を起こします。ついには、長年反目していた実父も巻き込み、米国議会の公聴会でマラリア撲滅を訴えるのでした。

サハラ砂漠以南のアフリカで、年間１００万人もの感染症被害、そして毎年５０万人もの子供達が亡くなっているマラリアについて、年に一度のチャンスである公聴会で感動的な演説をして、見事に多額の予算を勝ち取り、蚊帳の贈呈を促進することができたメアリー。

ここでようやく筆者は、本作前半の平和なメアリーは、先進国市民の投影であったのだと気づきます。

遠く離れたアフリカで、小さな蚊によって、テロや戦争よりも多くの子供達が命を落としている現実、そして蚊帳や予防接種、投薬で命を落とさずに済むはずの現実を、何も知らずに平和な毎日を過ごしている私達。

医療過疎でもある自然豊かなアフリカは、楽園であるとともに、支援が必要な地域でもあることを、この映画から知ることができます。同時に、環境問題で重要なのは、環境汚染とともに生態系を知ることでもあることも学ぶことができます。

こうしたメッセージ性のある作品ではヒラリー・スワンクの名演が光り、多くの視聴者の共感を得ているようです。ぜひ一度、ご鑑賞ください。

## 海外の緑化事情　スイス

日本人が思い浮かべるスイスのイメージ・・・・アルプスの少女ハイジ、アルプスの澄み切った空、高原。スイス銀行。時計・医薬品。食べ物ではチーズ。中立国。概ねこのようなイメージを持たれると思います。

スイスの夏場の平均気温は３０℃にも満たないところが多いのも事実ですが、３０℃を超える街もあり、その要因の一つとして考えられているのが、ヒートアイランド現象です。屋上緑化を導入して実際にヒートアイランド現象を緩和させた実績として、１〜２度夏場の平均気温が下がったという街も出ているようです。

スイスでは１９７０年代から屋上緑化に取り組んできました。そのきっかけは冬場の断熱作用が主でした。アルプスのお膝元やはり冬の寒さは厳しいので、エコロジーが盛んになってきた７０年代から取り入れてきたようです。その他にも、雨水の流出量の減少目的もあるようです。

また９０年代後半からは屋上緑化に補助金もでるようになり、自治体を上げて普及を促進してきています。

バーゼル市では、建築基準法もみなおされて、新築の陸屋根に対しては、屋上緑化が義務づけられ現在に至ります。

またもう一点興味深いところとして、屋上緑化が、絶滅危惧種を含む植物の生育場所になる事が示されて、ヒートアイランド現象の緩和・エコロジーや雨水流出の効果より、生物多様性を高めることが屋上緑化の中心となってきました。

緑化を行う品種が多様化するような工夫も取り入れられて、街の整備に関しても緑化を意識した整備になっています。自然土壊自生種をもちいて、雑草の手入れもせず灌水もしない。

屋上緑化では陸屋根ですので平坦なものになるので高低差をもうけることで丘陵を再現し、より自然に近い生育を行ってきています。

つまり緑化は自然の再現という考え方です。

自然が再現できれば、気候も安定してきてヒートアイランド現象の緩和もおこなえ、生物にもやさしい。そして人にも優しい緑化環境。世界のお手本のような緑化です。

詳しくは

緑化スタイルサイト
http://ryokka.org

↑　↑　↑　↑

ご覧下さい。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

## スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいていおりますスタッフの日常をお伝えいたします。

岡山工場の森内と申します。製造部に所属し１年が過ぎたところです。とにかく仕事を覚えるのに必死で、まだまだ理解しきれていない部分や分からないことが多々あり、日々勉強の毎日を過ごしています。

少しずつではあると思いますが、業界のこと自社のこと、自分の仕事のことについてもっと理解を深めていき、早く一人前になれるよう努力していきたいと思っています。

業務内容としては、主に電話・来客応対、作業表の入力、仕入処理、納品書の確認、書類のファイル管理、タイムカードの集計、商品の送り状の作成等を行っております。

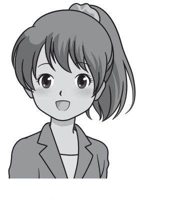
特に商品の送り状を作成し、控えをコピーし、それをお客様にファックスし、最終チェックを行うという作業で１日を費やすこともあり、時間に追われながら仕事をしています。

運送業者さんが荷物を取りにくるまでに送り状を作成しておかないといけないということもあり、非常に焦りを感じてしまいますが、そんな時こそ丁寧にミスがないようにと心がけています。また、送り状の作成等で時間をとられている分他の仕事が溜まってきてしまうので、いかに効率よく業務を行うかが今後の課題です。

話は変わりますが、少しだけ私自身のことについてお話させて下さい。最近の趣味としては、体を動かすことが好きなのもあり、時間があればですが平日はウォーキングをしてみたり、休日になると友達と体育館を借りてバスケットボールやバレーボール、バドミントンをしたりしています。遊び感覚ですが、スポーツをして汗をかくと凄く清々しい気持ちになりますし、高校まではソフトボールをしていたのですが、引退後、運動不足だったりしたので、体のなまりが少し解消された気になれます。

しかし、運動することも好きなのですが、それと同時に食べることも好きなので、運動している以上に食べてしまいます。何を食べても基本美味しいと感じてしまいますし、食欲が止まりません。もうすぐ夏がきますし、食欲と戦っていきたいと思います。

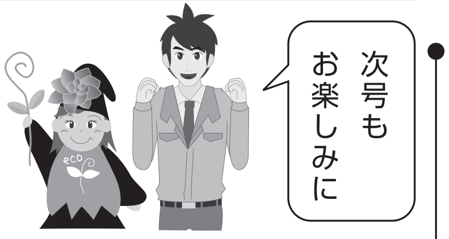
最後になりましたが、今後とも精一杯頑張っていきますので、どうぞよろしくお願い致します。暑い日が続いていますので、皆様体調管理には十分お気をつけ下さい。



岡山工場　森内　真奈未

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803



URL：http://www.dainichikasei.co.jp